

<「男は仕事、女は家庭」はもう古い？～男性のライフ・ワークバランスに注目して～>

灘中学・高等学校教諭の片田 孫 朝日先生を講師にお迎えして「男性のライフ・ワークバランス」について以下のような流れで学びました。勤務校の普通の授業でも「ライフ・ワークバランス」について教えておられます。

1) 男性の意識変化

内閣府「国民生活に関する世論調査」にも表れているように、生活で重視することが「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと移るに伴って、男性の意識も仕事志向から趣味や休養、家族団らん志向へと変化してきている。

2) 日本の長時間労働と短時間睡眠

有業男性の平均労働時間は平日約 10 時間。長い労働時間は睡眠時間を圧迫し、都市部の働き盛りの有業男性の平均睡眠時間は 7 時間未満。OECD29 カ国では最短となる。女性は男性よりもさらに短い。

3) 性別役割分業と女性差別

日本女性の就業率は G7 平均より高いが、男性の家事・育児への参加時間が欧米に比べて著しく少ない。そのため、女性が労働時間を制限せざるを得ない状況にあり職場での評価が下がるので、賃金も低くなる。女性の総合職の割合は 22%にとどまり、採用の段階から間接差別がある。

4) わたしの育児体験

育児は一人で行うのはたいへんなことで（拘束感が大きい）、母親だけに責任を押し付けるべきではない。父親・男性も学び努力すれば、母親・女性と同等の育児・家事能力をもつことができる。育児は男性の人生の幅を広げ、豊かにしてくれる特別な経験である。「子どもは母親がいいに決まっている」のではなく、より長い時間を共に過ごした人がいいのである。

5) 生活から政治へ

女性が社会で能力を発揮し、豊かな生活ができるように夫・男性が家事を分担しやすい環境を整えるには、社会の意識変化と合わせて、それを支える法制度の整備が必要になるが、現在の日本の国会は男性社会になっており、女性議員が少ない。クォーター制（割り当て制）を導入する等、対策が求められる。

参加者からは、「本日は生徒と一緒に参加させていただきありがとうございました。たくさんの気づきと希望をいただきました。」「やはり大切な政治のところまでお話が聞けて大変よかった。」「男子校でどのように授業をされているか興味を持った。過去からの価値観にしばられている自分を感じ、これからの考え方に少しずつチェンジしていきたいと思った。」「データも豊富で面白かったですが、ご自身の経験をまじえて話されていたので説得力がありました。」といった感想が寄せられました。